タンポポだより

vol.36
2021 春号

―― 友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌 ――

すずき出版発行「心のうたかれんだあ」(平成5年版)より　詩／坂村真民「ひとり」　画／海野阿育

坂村真民記念館
Sakamura Shinmin Museum

坂村家のアルバム

vol.6

天眼鏡で見抜いた〝強い意志〟

父・真民がまったく無名だった時代の自費出版本は14冊に及びました。詩集12冊と短歌集1冊、そして今回紹介する随筆集『あかねの雲流るるとき』です。そのあとがきにこう記しています。

「これら二十一篇の作品によって、私という人間の志向するものや、包蔵するものをいくらかでも知って貰いたい」…と。

そして、この随筆集の最初に登場するのが、『天眼鏡』の一文なのです。左記の写真は、その随筆本と、父が愛用していた天眼鏡です。天眼鏡というよりは大きな虫眼鏡のほうが正しいのでしょうか。

昂（たかし）少年（真民の戸籍名）の小学校入学時の家族写真を前号で紹介しましたが、少し説明を加えます。

父（子司（たねじ））と母（夕子（たね））の新婚生活は、天草で始まりました。物覚えのいい方は、真民にとって父親の形見である天草焼きの徳利が、ここで繋がってくるはず…。この地で長女が誕生し、その後長男・昂は玉名郡府本村（現・荒尾市）で誕生。下の妹弟達は同じ玉名郡玉名村ですが、それぞれ異なる番地で生まれています。つまり、引越を繰り返していました。そしてやっと一軒家に住む事になったのが、家族写真撮影時の大正4年で、昂少年は父親が校長をしている小学校へ入学しました。『天眼鏡』ではそこでの出来事を綴っています。

紹介しているのは随筆の始まりと終わりの部分、これでは観相家がなんと言ったのか解らないではないか…と叱られますね。さて、観相家が言った言葉をお父さんはお母さんに話し、昂は帰宅後、お母さんの口から聴きました。〝伝えられたことは、簡単至極、何も天眼鏡からぎょうぎょうしく眺めなくても、何でもないような、ありふれたことばであった〟とあります。しかし、この平凡な普通の言葉が重大な暗示となってその後の昂の人生に大きな波動のように深い影響を与え続けたのです。

『あかねの雲流るるとき』出版の20年後、随筆集『生きてゆく力がなくなる時』（現・めぐりあいのふしぎ）でこのときのことにふれています。――この観相家が父に言ったというのは、すぐれた才能はないが、怠らず努めたら、何かをなすであろう、ということだったのである――。

昂少年にはありふれたことに思えたその言葉は、後年仏教の世界に入り、お釈迦さまの最後のお言葉を知った時、あの観相家が言った言葉と同じだったということが解り驚くのです。

最後に、そのお釈迦さまのお言葉を書いてみます。

すべてのものは　うつろいゆく
おこたらず　つとめよ

八十にちかい老いた観相家は、その天眼鏡で、七つの子供の目の中に強い意志の光を見抜いたのでしょうか。

文／西澤真美子

天眼鏡

（随筆集『あかねの雲流るるとき』より）

わたしは自分から進んで観相してもらったことはない。臆病なのか、見も知らぬ人間から自分を左右されたりするのが嫌なのか、こういう人達がやってきても近づかないようにしている。

たゞ、わたしは一回こんなことを体験している。それはわたしが小学一年生のころであった。そのころ父は校長をしていたが、小使さんがわたしを呼びにきた。行ってみると、校長室には父ともう一人の老人とがいる。今まで会ったこともないような、おとぎ話の本の中によく現れてくるような老人である。

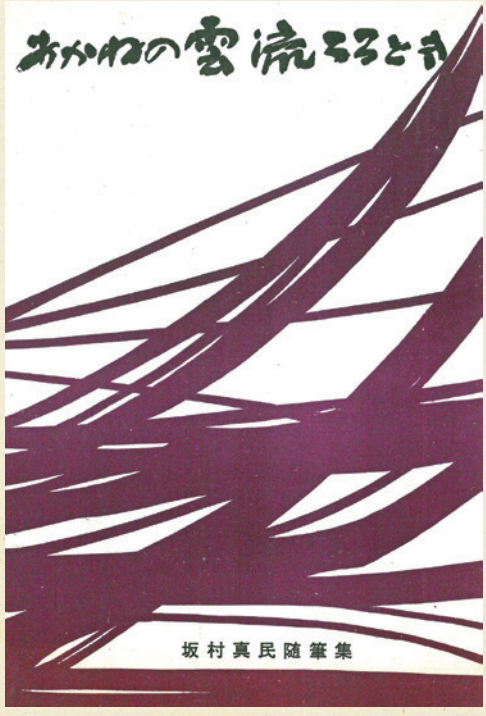
父は椅子に腰をかけるように言った。校長室には明るい日射しが一ぱい入っていた。

老人は観相家であったのだ。

〈中略〉

思えば一度ぎりわたしの前に現われて、一度ぎりわたしの相を見て、わたしに一本の真釘を打ち込んでいったこの観相家よ。わたしは其の後何十人もの教師からいろいろのことを教わり、いろいろのことを学んできたが、それらはみなわたしの皮膚をたゞなすっただけで、いつの間にか長い年月の間にすっかり洗い落されてしまったが、日の光のみなぎりわたっていた父のいる校長室で、大きな天眼鏡を通してわたしの体のなかに消えない真言を彫りつけていった老人よ。今は天眼鏡など信ぜぬわたしだが、この幼ない日の思い出は天平の玻璃のように美しいのである。

真民が愛用していた天眼鏡



随筆集『あかねの雲流るるとき』
昭和36年1月10日発行

観相家　：手相・人相などを見て、性質や運命などを判断する人

天平の玻璃のように：正倉院に納められている古代ガラスの器に喩て、遠く昔の薄く霞がかった美しい思い出を指している。

真民詩とわたし vol.36

「真民先生の園歌はひまわりの宝です」

菅原（すがわら） 雅子（まさこ）さん（76歳）

菅原雅子さんは熊本でひまわり幼稚園を経営する。先の見通せないコロナ禍のもと、菅原さんを支えるのは真民さんの言葉の数々。真民作詞、中田喜直作曲の園歌は、毎朝、子ども達により高らかに歌われている。

◆真民詩に励まされる日々

私の園は、無認可の幼児学園として昭和53年4月に8名の園児でスタートしました。4年後には150名となり、学校法人の認可をとりました。「豊かな心・すぐれた知能・たくましい体」を教育の柱に、全職員が子ども達に深い愛情を注いで仕事をしてきました。

新型コロナウイルスは私達の心身を蝕みジワジワと身近に迫って来ていますが、園の子ども達は元気一杯。私自身、「真民詩」からの真民先生のお言葉を一番の栄養源として、励まされ、力をいただいています。

◆めぐりあいのふしぎ

今からさかのぼること23年。小代焼「ふもと窯」の窯元を訪れた園児が、退屈まぎれに「二度とない人生だから」の詩を口ずさみました。驚いた窯主の井上泰秋先生は、「なぜその詩を知っているの？」「ひまわり幼稚園で習っているよ」。井上先生は早速園に電話をかけてこられ、「真民先生の詩を教えているのか？」「はい、情操教育の一環で唱和しています」とお答えしました。

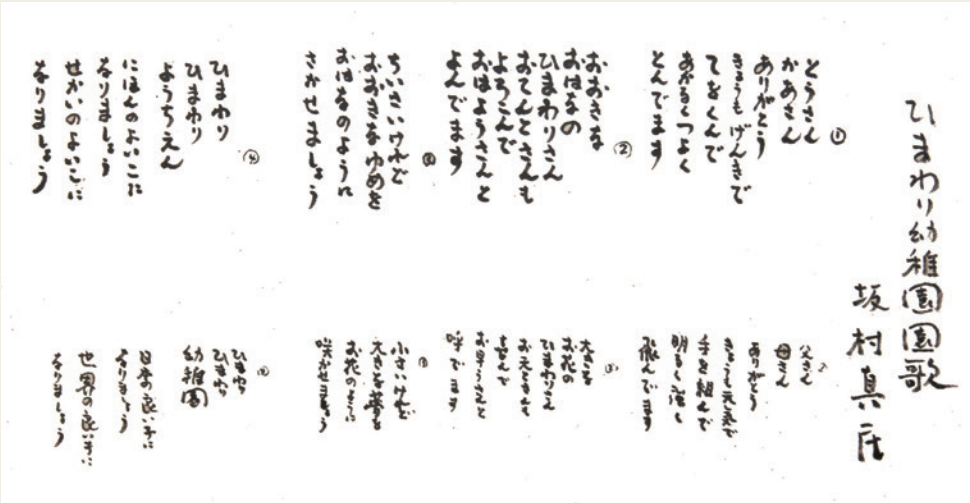
その後、真民先生は荒尾市府本のお生まれと知り、詩のご縁で朴の会の方々との輪が広がり、荒尾市まで足を運ばれた真民先生とお会いする機会を得ました。その時、年長児全員で「二度とない人生だから」を唱和したところ、先生は大喜びで園児一人ひとりと握手。その手の温もりは、30歳になった今でも卒園児の心の奥深くに残り、「二度とない人生だから」の詩を思い出しては、心豊かに毎日を送っているに違いありません。

◆念ずれば花ひらく

園創設当初、近隣の校歌を数多く作詞された方が園歌を作詞して下さったのですが、園の方針や教育内容にそぐわなかったため、そのまま机の引き出しに…。その方が亡くなられて間もなく、園の20周年記念として、真民先生に「ひまわり幼稚園歌」の作詞をお手紙でお願いしたのです。

「園歌在中」と書かれた封書がしばらくして届いた時は、跳びあがって喜びました。真民先生の言葉の重みに匹敵する作曲をと、中田喜直先生と懇意にされている園長先生を通してお願いしたところ、ご快諾いただきました。その園長先生は2度ほど真民先生に講演依頼をしたのですが、断られた経験から、「真民先生がよく作詞して下さった」と驚かれました。「めぐり合いのふしぎ」と「念ずれば花ひらく」の一途の思いが合致した瞬間でした。

著名なお二人の園歌はひまわりの宝です。毎朝、全園児がお二人に届くよう大きな声で歌っています。きっと微笑んで聴いて下さっているでしょう。在りし日のお二人を偲び、一期一会のご縁に感謝、感謝の毎日です。



ひまわり幼稚園園歌

坂村真民

① とうさん かあさん ありがとう きょうも げんきで てをくんで あるくつよく とんでます

② おおきな おはなの ひまわりさん おてんとさんも よろこんで おはようさんと よんでます

③ ちいさいけど おおきな ゆめを おはなのように さかせましょう

④ ひまわり ひまわり ようちえん にほんの よいこの なりましょう せかいの よいこに なりましょう

⑤ 父さん 母さん ありがとう きょうも元気で 手を組んで 明るく笑い 飛んでます

⑥ 大きな おはなの ひまわりさん おてんとさんも よろこんで おはようさんと 呼びます

⑦ 小さいけど 大きな夢を お花のように 咲かせましょう

⑧ ひまわり ひまわり 幼稚園 日本の良い子になりましょう 世界の良い子になりましょう

坂村真民記念館開館9周年記念特別展

「海野阿育と坂村真民の世界 ～版画かれんだあに描かれた真民詩～」展

開催期間 **2021年2月20日(土)～6月13日(日)** 月曜日休館(祝日の場合は翌日)

入 場 料／一般600円(前売り券500円)、65歳以上・高・大学生500円(400円)、小・中学生400円(300円)

開館9周年記念特別展は、これまでと少し雰囲気が変わり、真民詩と版画家とのコラボです。
平成3年から、坂村真民の詩を「版画かれんだあ」に描き、独自の絵の世界を表現してきた海野阿育さんの「版画かれんだあ」の原画を一堂に集め、展示することとなりました。

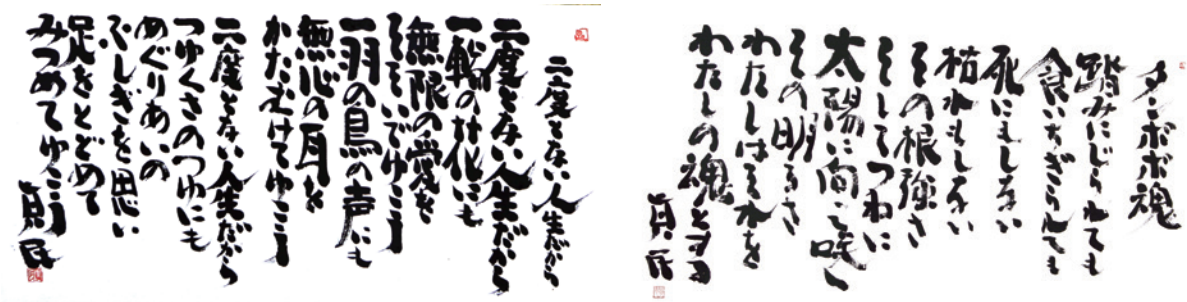
海野阿育さんと坂村真民との出会いは、昭和59年に鈴木出版から出された詩画集「自分の花を咲かせよう」の絵を担当されたことから始まり、その後も詩画集の絵を描いてくださり、真民との交流が続きました。

二人が実際に会ったのは、昭和59年の夏に、鈴木出版の編集者と共に、海野さんが砥部のタンポポ堂を訪ねたのが、最初で最後の「二人の出会い」でした。

今回の特別展では、「坂村真民の詩」をモチーフにして、独特な版画を描き「心のうたかれんだあ」という作品を作られてきた海野阿育さんの版画の中から17点の原画と、真民との最初のコラボ作品である「詩画集3部作の原画」や、真民から送られた手紙とはがきなどを展示して、二人の交流の様子についても取り上げています。

日本画を学び、各地の寺院の天井画や襖絵を描かれている海野阿育さんが、真民詩に触発されてその独自の感性で描かれた「詩画」は、見るものを不思議な世界に導いてくれます。

どうぞ、版画に描かれた真民詩のメッセージをゆっくりとご鑑賞ください。



作品収蔵庫を探検しよう!

『書棚』

真民が昭和26年(42歳)から平成17年(96歳)まで書き綴った796冊の貴重な思索ノートや、真民の遺した愛読書等。

『資料保管棚』

真民詩の原稿や真民の愛用品、写真や音源等。真民が昭和37年(53歳)から平成17年(96歳)まで毎月発行した個人詩誌「詩国」や「鳩寿」のバックナンバーが保管されています。

2F

1F

『桐の収納棚』

桐は防湿、防カビ、防虫、耐火性に効果があり、真民の直筆の色紙、短冊、手紙等が保管されています。

『収蔵庫』

断熱性、気密性、耐火性・防犯性に優れた専用の収蔵庫で、扉は特別に作られ、万が一の災害時にも備えられています。

『収蔵棚』

貴重な真民詩の額装や軸装をサイズ別に分類しています。特別大きなサイズの額装は天井の高い入口に保管しています。

経営理念

最大の会社より最良の会社
人さまに喜んで頂く仕事と
自分づくりをする

ホテルクリオコート博多
〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街5-3 Tel 092-472-1111

株式会社 宣翔物産
〒812-0857 福岡市博多区西月隈3-6-17 Tel 092-475-1151

『木は氣なり』

百年の木には百年の氣が宿り

千年の木には千年の氣が宿る

鳩寿四 真民詩

南木曽木材産業株式会社
〒399-5302 長野県木曽郡南木曽町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫
TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 http://www.nagiso.co.jp メール kao@nagiso.co.jp

砥部の地で、医療、看護、介護の三位一体を実現する砥部病院

To-be
介護付有料老人ホーム トゥービー

介護付有料老人ホーム
To-be
全78居室/20㎡～24㎡(1F&2F)

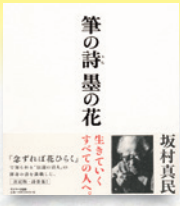
M To-Be
住宅型有料老人ホーム モンレーヴ砥部

住宅型有料老人ホーム
モンレーヴ砥部
全18居室/40㎡～90㎡(3F)

伊予郡砥部町麻生51-1(砥部病院西隣) TEL.089-969-0085 砥部病院ケアサービス株式会社

サンマーク出版 坂村真民の本

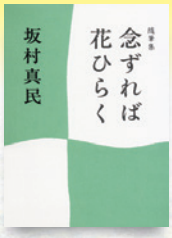
詩墨集 筆の詩(うた) 墨の花



●定価＝本体 3500円+税

坂村真民記念館所蔵の作品を満載！

随筆集 念ずれば花ひらく



●定価＝本体 1800円+税

初めての随筆集を復刻！

念ずれば花ひらく

10万部突破の超ロングセラー！

詩集 念ずれば花ひらく

いま届けたい、生き方の道しるべ

詩集 宇宙のまなざし

詩集 二度とない人生だから

詩集●定価＝本体各1000円+税

サンマーク出版
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167
http://www.sunmark.co.jp

致知出版社 坂村真民シリーズ

全424頁、豪華座右版

生涯1万篇以上といわれる
膨大な詩作の中から366の名詩を精選。
長年、真民詩に魅せられ人生を歩む道標としてきた
『致知』編集長が渾身の思いで編纂に当たりました。
心が弱った時、悲しみに直面した時、
ぜひ本書を紐解いていただき、
心の糧となる詩に出逢っていただければと願っています。

坂村真民一日一詩

坂村真民＝著／藤尾秀昭＝編
定価＝本体2,000円＋税
四六判上製

人生で口ずさみたくなる言葉が見つかる

坂村真民一日一言
坂村真民＝著
定価＝本体1,143円＋税
新書判

円覚寺派管長が選んだ真民詩100選

坂村真民詩集百選
坂村真民＝著／横田南嶺＝選
定価＝本体1,300円＋税
新書判

真民氏が自らを励まし、勇気づけるために綴った87篇の詩

坂村真民箴言詩集 天を仰いで
坂村真民＝著／西澤孝一＝編
定価＝本体1,300円＋税
四六判並製

月刊『致知』に掲載された幻のインタビュー集

詩人の颯声を聴く
坂村真民＝著／藤尾秀昭＝聞き手
定価＝本体1,300円＋税
B6変型判上製

致知出版社（ちちしゅっぱんしゃ）
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前4-24-9
TEL.03-3796-2118 FAX.03-3796-2109

オンラインショップでもご購入できます！
致知オンライン で 検索

坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の会は、会員の皆様と記念館との交流を図り、記念館を共に支え、育てていくことを目的とした会です。入会された方には会報と、真民グッズなどの記念品を贈呈します。

パスポート会員 年会費2000円	特典	会員証で入館無料1人 ほか
一般会員 年会費5000円	特典	会員証で入館無料1人 ほか
特別会員 年会費10,000円	特典	会員証で入館無料2人 ほか
法人会員 年会費10,000円	特典	会員証で入館無料2人、観覧券10枚贈呈 ほか

詳しくはホームページをご覧下さい 坂村真民記念館　友の会 検索

〈編集後記〉
真民は、厳しい寒さのなかで凛と咲く香りのよい水仙、風雪にたえ趣深く花をつける紅梅の古木が大好きでした。散った一輪の紅梅をそっと口に含む父の姿…。“密”にならないよう、自然の中に身を置き、冬の美しさを体で感じてみませんか。（真美子）

タンポポだより vol.36 春号
令和3年3月1日発行
発行元／坂村真民記念館友の会事務局
〒791-2132 伊予郡砥部町大南705　坂村真民記念館内
TEL089-969-3643　FAX089-969-3644

［坂村真民記念館］
開館時間／9～17時（入館は16時30分まで）
休館日／月曜（月曜が祝日の場合は翌日）、12月29日～1月1日
入館料／65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、小・中学生200円　※15人以上の団体は割引あり